



川口緑化センター 緑花ガイド

ノウゼンカズラ

古く中国より渡来した植物で、高さ3～6mになるつる性の落葉高木です。茎から付着根を出し、他の樹木や壁などに張り付いて伸びます。

花は、黄赤色の日花ですが、次々と咲き続け、6月から9月頃まで、咲きます。

生長が早いので、苗を植えつければ、3年もすると花が見られるようになります。1mほどの苗木は、2～3年育て、一定の高さの幹を作り、その先端から枝を垂らして開花させるとスタンダード仕立てになります。



ノウゼンカズラ



壁面の緑化

植え付け

3月から4月上旬に、日当たり、水はけのよい湯気味の場所を選びます。大きめの穴を掘り、元肥として堆肥をたっぷり入れ、根を大きく広げて植えます。

植え付けた後は、仕立て方に合わせて、支柱を立てておきます。

施肥

やせ地でなければ、特に施肥の必要はありません。

施肥する場合は、窒素肥料を避け、枝葉をあまり茂らせないようにします。

病害虫

害虫は、春先に新梢にアブラムシがつきやすい程度で、その他の害虫はあまりありません。

剪定

落葉後の11～2月に、細かい枝をすべて切り、幹だけにするかなり強い切り戻しをします。こうすると翌年の春に勢いのよいつるが出て、花がたくさん咲きます。

新梢の先端に5月頃から花芽がつき、一ヶ月もすると開花しはじめます。この新梢を剪定してしまうと、花が咲きません。

幹の途中から出るつる、地ぎわから出るヒコバエ、伸びた根から出る芽などは、早めに切り取っておきます。

仕立て方

幹の直径が3cm以上になると花をつけるので、できるだけ幹を立て、早く太らせます。

ポール仕立てや傘形仕立てにしたり、壁面をよじ登らせたり、斜面や土留めの石垣に垂らします。



類似種

◎アメリカノウゼンカズラ(別名コノウゼンカズラ)もよく栽培されています。

北アメリカ原産の低木で、小葉が9～11枚、葉裏の葉脈上に毛があり、花は径3～4cmで、花筒が細長く、ノウゼンカズラより赤味の強い橙紅色の花が咲きます。



◎ノウゼンカズラ“コンテッササラ”

ノウゼンカズラよりやや小さめのピンク色の花が咲きます。

